



教育効果の高い望ましい産学連携 インターンシップによる人材育成

2018年1月29日

公益社団法人経済同友会
参与 藤巻 正志

- 1. 人材育成に向けた問題意識**
- 2. 企業、大学がなすべきこと、協力すべきこと**
- 3. 教育効果を重視した「経済同友会版インターンシップ」**

1. 人材育成に向けた問題意識

2015年4月提言「これからの企業・社会が求める人材像と大学への期待 ～個人の資質能力を高め、組織を活かした競争力の向上～より

- わが国の競争力を高めるうえで、資質・能力の高い人材育成は急務であり、社会全体で真剣に考え、対処していかなければならない問題である。

しかしながら... 企業が望む資質・能力を備えた人材育成は未だ途上。

【企業が望む人材育成が進まない理由】

	これまで		今後の姿
大学での学びと 企業・社会での学び	不連続なものとする 傾向	➡	連続的なものとして捉えていく
人材育成に向けた産学官での対話	不十分		歩み寄り、対話を深めていく
企業・社会が求める人材像	大学や学生にとって わかりづらい		大学や学生に明確に伝えていく

企業→求められる人材の育成に社会の一員として積極的に関与していく責任

大学の位置付け→課題解決に真に必要な知識、教養や技術、スキルを身につける教育機関

2. 人材育成に向けて企業がなすべきこと

①企業が求める人材像の明確化と発信

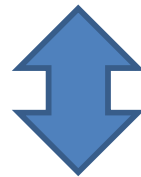
- 企業は、経営ビジョンを実現するために求める人材の能力について、語学力や資格、成績水準、スキル等、できるだけ具体的に明示して社会に発信すべき。

➡ 期待 … 就職のミスマッチ解消にもつながるのでは？

②採用選考における学業成績の積極的な活用

- 企業が採用選考で学業成績を重視することを宣言し、求める成績や知識の内容・水準を明示。

その前提として大学に望むことは…



- 大学の教育水準と卒業生の質の保証
- 成績の根拠や学びの内容の明確化

➡ 期待 … 大学・学生が学びの重要性を再認識するのでは？

2. 人材育成に向けて企業がなすべきこと

企業が学生に対して面接で確認したいこと … 例示として

■ 学生時代の学びの成果

- 専攻で学んだことは何か、学びで得たものは何か
- 教授の講義内容、方法はどうかであったか、理解できたか
- ゼミ等で課題解決のディベート、アーギュメントを体験したか
- 議論で何に苦労したか、工夫したことはあるか、異なる意見の取りまとめに努めたか
- 学生時代の学びを如何に社会や企業(当社)で活かし、貢献できるか、将来企業でどんなキャリアを描きたいのか

■ 人や社会との交流

- 部活動や就業体験で得たものは何か
- インターンシップに参加したか、そこで得たものは何か
- 自己の得意なこと、長所を如何に活かして伸ばしたか、失敗や不得手なもの、短所の克服に如何に努めたか
- 業務上の相手を納得させ理解を得るような、組織における(友人とは異なる)コミュニケーションが図れるか、周囲が自分に求めることを認識し、期待どおりに対応できるか

■ 求められるコンピテンシー

- 業務に積極的に臨む姿勢や心構えができているか
- 耐力、行動力(打たれ強さ、チャレンジ力など)を備えているか
- 業務の目的を理解し、始める手順や段取りをつけられるか(不要不急の判断、プライオリティ、重要度、他チームとの調整範囲、スケジュール管理など)
- 業務遂行に必要な情報、知識、人材、予算、機材などをイメージして、チーム作りができるか
- 組織のチームの一員として役割を果たせるか、取りまとめができるか、チームのなかで他者と相互に補完し、相乗効果を発揮できるか

2. 人材育成に向けて大学がなすべきこと

①大学のビジョンの明確化・具体化と機能の強化・分化

②国際化対応:優秀な外国人教員の受入れ、英語による授業・情報公開

③教職員の資質・能力の向上

● 教員評価の徹底と教員の教育力向上

大学が担う役割として特に教育への期待が大きいことから、教育に重きをおいた評価システムの構築に期待。加えて、評価項目には学生の就職実績や就職先の評価も盛り込んで

● 大学職員の資質・能力向上

学校運営に係る重要な役割を担う職員は、教員と分担して業務の効率化、高度化を目指すべき。

➡ 教員・職員ともに、年功序列型の硬直的処遇から、成果に応じた弾力的な処遇への移行に期待。

④卒業生の資質・能力の保証

- 教育内容・レベル、学生の到達度の明確化と学業成績への反映
- 卒業資格の厳格化
- 学び・専攻の柔軟化

教育効果の高いインターンシップの強化・充実

課題

- 単位化、事前・事後学修など教員や大学の組織的な関与が少ない
- 学部3年生、修士1年生が中心で低学年次まで広がらない
- プログラムの企画・立案、受入れ体制など企業の準備が十分でない
- 数日から1週間程度が多くキャリア教育としては期間が短い

3. 教育効果を重視した「経済同友会版インターンシップ」

活動の狙い

- 産学協働による人材育成
- キャリア教育の一層の推進
- 教育効果を高めた望ましいインターンシップの実践と普及

➡ 「経済同友会版インターンシップ」を通じた学生の資質・能力(※)の向上

※提言で示した「企業が求める人材像と必要な4つの資質・能力」

● 変化の激しい社会で、課題を見出し、チームで協力して解決する力
(課題設定力・解決力)

● 多様性を尊重し、異文化を受け入れながら組織力を高める力
(ダイバーシティ)

● 困難から逃げずにそれに向き合い、乗り越える力(耐力・胆力)

● 価値観の異なる相手とも双方向で真摯に学び合う対話力
(コミュニケーション能力)

3. 教育効果を重視した「経済同友会版インターンシップ」

基本枠組み

①対象は学部1、2年生が中心

- ✓ 学部1、2年生からの早期の実社会体験で得た様々な気づきを、その後の学びに生かす。

②大学での単位化

- ✓ 大学における支援体制の整備 → 理事長・学長のリーダーシップによる全学的な体制整備が必要。
- ✓ 大学が関与する形でのプログラム開発。
- ✓ 教員の関与によるPBLの実践。
- ✓ インターンシップによる学びの効果を高めるうえで、大学での事前・事後学習は重要。

③原則、4週間以上

- ✓ 教育効果を高めるなど質的向上を実現するには、長期間が有効。

④実費相当の支給

- ✓ 交通費、宿泊費等は企業から支給し、学生には経済的負担を課さない。
- ✓ 報酬の支給も今後の課題。

3. 教育効果を重視した「経済同友会版インターンシップ」

実施状況

	2016年度	2017年度
大学・高専	11校	13校
企業	16社	23社
学生	67名	121名

2017年度実施インターンシップ 参加企業および大学・高専 (順不同)

企業 (23社)	大学・高専 (13校)
三菱ケミカル、デュポン、出光興産、花王、野村證券、全日本空輸、キッコーマン、キッツ、個別指導塾スタンダード、JFEスチール (JFEホールディングス)、シーエーシー (CAC Holdings)、凸版印刷、ニフコ、富士ゼロックス、三井住友銀行、大林組、住友林業、第一生命保険、日本航空、日本信号、日本板硝子、パソナグループ、マニユライフ生命保険	北海道大学、小樽商科大学、新潟大学、お茶の水女子大学、東京外国語大学、九州大学、高知工科大学、山口東京理科大学、上智大学、昭和女子大学、津田塾大学、仙台高等専門学校、富山高等専門学校

学生の声から分かる活動の成果

多くの学生から学修意欲、社会に対する関心、キャリア形成への意識の向上に関する声が聞かれた。

- 2年生という早い段階でインターンシップができたことで、気づきや学び、価値観の変化等を得て、それを残りの二年半の大学生活でも活かすことができます。
- 少し先の社会人の姿を見て学んだことにより、何をすべきかが参加前よりも明確になった。大学内で同友会インターンシップに行った学生とも事後学習を通じて経験談の共有ができ、刺激し合える仲間を見つけることもできました。
- 働く意義や楽しさについて学べた点がとても良かった。
- 自分が社会に出るということが全く想像できなかったが、少し具体的になり、やりたいことを考える良いきっかけになりました。インターン後、授業をはじめとする様々なことに今までより積極的に取り組むことができるようになりました。
- 今回のインターンシップで誇りを持って仕事をしている社員の方をみて、このような人になりたいと思うようになり、大学での講義に対する姿勢も積極的なものになりました。今後何を学べばいいのか、また今まで学んできたことがどのように社会に出たあと役に立つのかを理解できたことはとても意義のあることだと思います。また同年代の優秀な学生に囲まれて一か月過ごしたことにより、非常に刺激を受け、インターンを通して構築したお互いにより一層高めあえる関係は私にとって何よりの財産です。
- 会社は幅広い知識が不可欠と知り、参加前よりも積極的にニュースや新聞を見るようになりました。

3. 教育効果を重視した「経済同友会版インターンシップ」

2017年実施後のアンケート調査より

参加学生への設問

● インターンシップ参加動機（優先順位をつけて5つ以内を選択）

N=108

順位	項目	ポイント
1	実社会を知る・働くことを経験するため	312
2	業界・企業を知り、将来の就職の選択肢を広げるため	253
3	社会で求められる力を知り、今後の学業等につなげるため	237
4	自分の能力や大学等での学びなどが、社会でいかに役立つかを知るため	216
5	自分が何をやりたいのかを見つけるため	177
6	大企業でのインターンシップを経験したいため	117
7	家族や先生、先輩や友人などに勧められたため	54
8	インターンシップ先(企業)の採用につなげたいため	22
9	その他	29

* ポイントは、重要な順から、第1位を5ポイント、第2位を4ポイント、第3位を3ポイント、第4位を2ポイント、第5位を1ポイントとしてそれぞれの回答数に乗じて算出した合計ポイントによる。

2017年実施後のアンケート調査より

参加学生への設問

● インターンシップ参加動機（優先順位をつけて5つ以内を選択）

⇒ 「その他」を選択した場合の自由記述より抜粋

- ・学部3年時に留学することを志望していたため、就活対象のインターンシップには参加できないおそれがあり、今のうちに経験しておきたいと考えた。
- ・他大生と交流するため
- ・長期間のインターンシップであるため
- ・東京で働くことがどういうことなのかを知るため
- ・企業の開発研究職とはどのようなものか知るため
- ・以前から興味のある業界であり将来の選択肢の一つとして考えていたので、詳しい勤務状況を知り適性を確かめるため。

3. 教育効果を重視した「経済同友会版インターンシップ」

参加大学・高専への設問 ⇒ 教員の声

- 学生の職業観の醸成、社会に対する関心を高めることにつながった。

項目	チェック	%
A非常にそう思う	8	67
Bそう思う	4	33
Cどちらともいえない	0	0
Dそう思わない	0	0
Eまったく思わない	0	0
	12	100

N=12

自由記述より抜粋

- 単なる見学ではなく、社員に近い立場で業務を行うことによって社会人としての厳しさを学ぶと同時に、仕事のやりがい、社会における仕事の意義を見出し、「仕事」をポジティブなものとして受け止められるようになった。
- 特に日常の業務の現場で受入れていただき、一定の業務（課題）を任された学生には、「組織でたくさんの人とともに働きながら成果を出す」ことのリアル、社会で力を発揮するために自分自身に不足している力・考え方を実感として感じられる機会となった。
- 事後学習における学生のグループワークの発表や事後に作成した報告書の内容から多くの学生が職業観の醸成や社会に対する関心を深めたことが示されていました。

3. 教育効果を重視した「経済同友会版インターンシップ」

参加大学・高専への設問 ⇒ 教員の声

- 学生の学業に対する意欲が向上するなど、変化・成長を感じた。

項目	チェック	%
A非常にそう思う	7	58
Bそう思う	5	42
Cどちらともいえない	0	0
Dそう思わない	0	0
Eまったく思わない	0	0
	12	100

N=12

自由記述より抜粋

- 学生は、論理的思考を一層意識したい、社会の問題点を解決するとの理念を学業に応用したい、教養を深めて視野を広げ、専攻する専門性を高めたい、と多くの気付きを得て、学習意欲の顕著な向上が見られた。大学としても学生の今後の成長をフォローする必要がある。いずれにしても、参加学生の成長が著しかった。
- 今後学びたい分野がより明確になっただけでなく、他者からフィードバックをもらうことの意義、学生時代に何かにチャレンジする経験（また失敗経験）を積むことの重要性など、ものごとに取り組む姿勢への影響を自らの言葉で語る様子が報告会でも見られた。
- 残りの学生生活で何を学びたいか、どんなスキルを身につけるべきか具体的な目標を見つけてくるなど、興味のある分野が広がり、学業計画が変わる学生もいる。

参加企業への設問 ⇒ 担当者の声

- 受け入れた学生の大きな成長や変化を感じ、インターンシップを通じた育成にやりがいを感じた

項目	チェック	%
A非常にそう思う	12	55
Bそう思う	8	36
Cどちらともいえない	1	5
Dそう思わない	1	5
Eまったく思わない	0	0
	22	100

N=21社+1部門

自由記述より抜粋

- 時間をかけて成長を促すことができたからこそ、キャッチアップに時間がかかる学生でも長所を発揮することができた。また、自分自身を振り返る時間を設けたことで短所を把握して長期間インターンをできたことが成長につながった。当然、日々成長していく姿を見ることにもやりがいを感じることもできた。
- 答えが決まっていない業務を担当いただいたのですが、当初は受け身で指示待ちだったのが、途中から自分で考えて行動し、自分の思いを入れた提案をまとめる主体的な姿勢に変化した様子が見られた。
- 最初のころはやる気があるのかわからなかった学生もいたが、最後は皆、参加してよかった、本当に勉強になったと言っていたし、目つきが変わった。

3. 教育効果を重視した「経済同友会版インターンシップ」

インターンシップの事前学習として必要と思うものはどのようなことですか。

(優先順位をつけて5つ以内を選択)

学生

大学

企業

順位	項目	ポイント
1	実習先企業の組織概要、社風、業界の情報	290
2	詳細なインターンシップ内容	270
3	ビジネスマナー	204
4	PCスキル、プレゼンの練習	205
5	コミュニケーションスキルの向上	160
6	ハラスメント対策・自己管理の徹底等	74
7	経済同友会の歴史・組織概要等	56
8	経済同友会会員(企業経営者等)による講演会	39
9	その他	26

N=108

順位	項目	ポイント数
1	ビジネスマナー	29
2	コミュニケーションスキルの向上	22
3	実習先企業の組織概要、社風、業界情報	18
4	ハラスメント対策・自己管理の徹底等	12
5	経済同友会会員(企業経営者等)による講演会	11
6	経済同友会の歴史・組織概要等	7
7	詳細なインターンシップ内容	6
8	PCスキル、プレゼンの練習	4
9	その他	36

N=12

順位	項目	ポイント数
1	実習先企業の組織概要、社風、業界情報	36
2	コミュニケーションスキルの向上	34
3	詳細なインターンシップ内容	30
4	PCスキル、プレゼンの練習	30
4	ビジネスマナー	29
6	ハラスメント対策・自己管理の徹底等	19
7	経済同友会の歴史・組織概要等	14
8	経済同友会会員(企業経営者等)による講演会	4
9	その他	38

16

N=21社+1部門

インターンシップの事前学習として必要と思うものはどのようなことですか。

⇒ 「その他」を選択した場合の自由記述より抜粋

● 学生

- 一般教養。
- 自分が何のためにインターンシップに参加するのかを明確にする。
- その業界に対する基本的な理解を深めておくことが非常に大切であると思う。基本的な知識を詰め込んでおくことで、企業の人に対して熱意を示すことができ、信頼を得ることができると思います。

● 大学・高専

- インターンシップの意義、インターンシップを通じて何を学ぶか。 学生の職業観や学習意欲の向上に資するよう自覚を高めることに留意。
- インターンシップ先での目標設定。 特に現時点での自己認識とありたい自分とのギャップを意識し、インターンシップ先で特に何を学び何を身につけるのかを意識させること。
- PPTの作成練習、プレゼンテーション練習を兼ねて自分の専門、自分の学科紹介、インターンシップで何を学んでこようと思うのか、その目標の発表。

● 企業

- 働くことの意義、あるいはなぜインターンシップに参加するのか、その目的や達成目標の十分な事前考察と内省が必要と考える。
- 当初は実習内で指導すれば滞りなく対応できると考えていたのですが、学生が苦慮しているのが見受けられたので、簡易的なプログラミング学習が事前に必要と感じた。

3. 教育効果を重視した「経済同友会版インターンシップ」

企業への設問

- インターンシップに参加した学生に不足している点、今後もっと高めてもらいたいと思う点をお答えください。（優先順位をつけて5つ以内）

提言で示した
4つの資質・
能力

順位	項目	ポイント数
1	主体的行動力・発信力	59
2	コミュニケーション力	35
2	課題設定力・解決力	35
4	多様性への適応力	21
4	粘り強さ（耐力・胆力）	21
6	論理的思考	16
7	自己研鑽意識	14
7	PCスキル・プレゼン力	14
9	一般常識・一般教養	9
10	社会情勢・政治・経済への関心	7
11	ビジネスマナー	7
11	自身の専門分野における能力	5
13	共感力	4
14	語学力	3
15	その他	15

ーその他を選択した場合の自由記述ー

- 今回参加いただいた学生のみなさんに対する項目はありませんでした。上記は一般的に必要なと思われるものを列挙しております。
- 特に不足していたというわけではなく、一緒に働くということで、あったらよさそうというレベル。

3. 教育効果を重視した「経済同友会版インターンシップ」

参加学生への設問

- インターンシップに参加して、自分自身に足りないと感じた点、今後もっと高めたいと思うものはどのようなことですか。（優先順位をつけて5つ以内を選択）

順位	項目	ポイント
1	PCスキル・プレゼン力	185
2	論理的思考	159
3	社会情勢・政治・経済への関心	142
4	自身の専門分野における能力	132
5	課題設定力・解決力	132
6	一般常識・一般教養	114
7	主体的行動力・発信力	109
8	コミュニケーション力	104
9	ビジネスマナー	99
10	語学力	87
11	多様性への適応力	55
12	自己研鑽意識	40
13	粘り強さ（耐力・胆力）	26
14	共感力	21
15	その他	18

囲みは、企業が学生に高めてもらいたい点の1位と提言で示した4つの資質・能力

参加学生の感想①

- 東京の企業で、2年生で、1ヶ月にわたり最先端の現場で活躍する社員の皆さんに片っ端から教えていただいたことはうまく言葉で表せない程濃く、充実したものになった。何倍にも成長できました。今後はこの経験を活かし精一杯活躍していきたいと思えます。
- 東京での一ヶ月間のインターンシップは自分の価値観を変えるものとして十分なものでした。特に専門分野に関しての体験は、ほかのインターンシップと比較しても内容の濃いものでした。
- 一般的な就労型のインターンシップでは、期間も短く見学を中心としたものでしたので働くことを実感することが出来なかったのですが、今回のインターンシップでは企画立案や機能実装、実際の研修で行われている機械系の実習など様々なことを体験させていただき、自分の知識や能力を広げることができ、働くことをより実感することが出来たと思えます。

参加学生の感想②

- 多角的なものの見方や働く意義、人間関係の構築の大切さ、ビジネスマナーなど自分にまだまだ足りないことがとてもよくわかりました。
- 他大学の学生とワークを行い、自分にはなかった視点や考え方に触れることができ有意義な経験となった。
- 世間では1dayインターンといった会社見学会がメインのインターンシップが多い中、採用を前提にしないインターンシップに参加でき、とても良かったです。
- 「会社」「仕事」について様々なことを考える機会になった。今後も継続して行われると後輩たちの良い刺激になると思います。私達に投資してくださり、ありがとうございました。
- 費用負担も少なく、地方の学生にとってはとても良い機会となりました。
- 大学と企業が親身になって学生の挑戦を支えてくれているような印象を受けました。

今後の展望と課題

2018年度インターンシップ 会員所属企業(28社)、参加大学・高専(15校)、学生(約140名)

- 「経済同友会版インターンシップ ≡ 望ましい枠組みインターンシップ」の拡大・発展
 - ⇒ 学生を大きく成長させる教育効果は顕著、より多くの学生に機会提供
 - ⇒ 趣旨に賛同する企業や大学の参加を期待
 - ⇒ 今後、より普及させていくために何か必要か？
- 学生、大学・高専、企業の交流を推進
 - ⇒ OB・OG会の結成、交流会の開催など組織的な運営
 - ※運営をどうするのか？



受け入れ企業におけるインターンシップの様子



広報誌『経済同友』 特集座談会 未来を担う人づくりを考える (2017年4月号)
https://www.doyukai.or.jp/publish/2017/pdf/2017_04_01.pdf
2016年度インターンシップ生、大学学長、受け入れ企業人事担当者、教育改革委員会委員長による座談会。



経済同友会版インターンシップ報告会

ご清聴ありがとうございました

経済同友会 藤巻 masa@doyukai.or.jp